

アルフレッド・フランクラン 【パリの私生活】

LA VIE PRIVÉE D'AUTREFOIS: Arts et métiers, modes, mœurs, usages des parisiens du XII^e au XVIII^e siècle d'après des documents originaux ou inédits, par Alfred Franklin (Paris, 1887-1901)

Part 3 : 学校と子ども



12世紀から18世紀にかけてのパリ住民たちの
日常を明らかにした、歴史書シリーズ。

質の高い23冊の重要著作をテーマに沿って5つのパートに分けて復刻。

全3巻+別冊解説: 宮下 志朗(放送大学教授)

ISBN 978-4-86340-104-4 • 984 pp. 定価(本体45,000円+税) ▶2012年9月予定

Écoles et collèges (1892)

L'Université • L'église • Les suppôts de l'Université • La corporation des écrivains • Variétés pédagogiques • Organisation de l'enseignement au XVI^e siècle: enseignement primaire, secondaire, supérieur • Organisation de l'instruction publique à la fin du XVIII^e siècle: instruction primaire, secondaire

L'enfant (2 vols: 1895, 1896)

Le mariage: décadence du mariage; pratiques superstitieuses et croyances populaires relatives au mariage • L'accouchée: grandes dames et bourgeoises; les couches royales • Les dauphins • Le baptême: les actes de l'état civil; le cérémonial; baptêmes de rois et de dauphins • Éclaircissements • Premiers soins, berceau, layette • La nourrice: le lait maternel; les bureaux de placement; la nourrice dans la famille; les nourrices royales; nourriture et sevrage • Les premières années: l'enfant entre les mains des femmes; l'enfant entre les mains des hommes • La vie de famille • Les jouets et les jeux

Athena Press

「学校と子ども」を拾い読みする

宮下 志朗 ● 放送大学教授

フランクリンの本で、いつも手近に置いてあるのは『1540年のパリ都市図に関する歴史的・地形的研究』(1869)で、16世紀のパリの巷を想像するのに不可欠の書物となっている。世評に高い『パリの私生活』シリーズは、ばら本で買ったので揃っていない。今回の復刻は大歓迎である。さて、その第3部は「学校と子ども」全3巻(「学校とコレージュ」が1冊、「子ども」が2冊となっている)。とにかく、学問的な身ぶりなどにはこだわらずに、雑多なことを教えてくれるのがありがたい。わが書齋には「子ども」編があるはずだと探しまわること15分、ようやくにして書棚のいちばん奥に発見して読んでみた。1冊目は、結婚から出産までを扱っているのだが、ここでは、へその緒を切るところから話が始まる2冊目を紹介したい。巻頭ただちに、14世紀のフランチェスコ会士の著作が引用される。産婆さんは、取り上げたばかりの赤ちゃんの手足に塩とハチミツを塗ってマッサージし、血行を促したという。とにかく、手足の頻繁なマッサージが欠かせず、特に男の赤ちゃんの場合、将来の肉体労働に備えて、このことが必須なのだとのたまう。また、赤ちゃんを揺ると、頭に熱気が上昇して眠気を催すから、そうしなさいとも教える。そして、新生児のこうした扱いは、その200年後も変わってませんよと述べて、今度は、無学の床屋外科医から国王の侍医にまで上りつめたアンブロワーズ・パレへと話題が移っていく。全体として、非常に読みやすい。次に第5章「玩具と遊び」をめくってみる。当然ながら、わがラプレー「ガルガンチュア」の第22章「ガルガンチュアのお遊び」という、200以上にもなる子どもの遊戯のリストにも言及される。そこに出てくる *bille bouquet* は「拳玉(けんだま)」のフランス語としての初出なのだが(現代フランス語では *bilboquet*)、フランクリンによれば、アンリ3世

の時代には大流行して、王様自身も楽しんだというから、『レトワールの日記』が引かれる。国王が歩きながら拳玉を楽しんだので、貴族たちも真似したという。こうした興味深いエピソードを、随時、原典から引いて紹介してくれるのが、本書の大きな魅力で、わたしもタイヤしたら『レトワールの日記』を読破するぞとの決意を新たにしたい。やがて拳玉は、大人の遊びとして流行し、革命直前のパリには、木製や象牙製の豪華な拳玉を売る店まであったという。子どもの遊び・玩具の資料体として、侍医であったジャン・エロアールが、ルイ13世の幼少時の日常を詳細に綴った、あの膨大な『日記』を持ち出してくるのも、さすがというしかない。幼いルイがどんなおもちゃを与えられ、どんな遊びをしたのかを、『日記』から抜き書きしている。2歳で独楽(こま)遊びはいいとして、同時にヴァイオリンも与えられているから、習わされたのだろうか? 3歳になると早くも「銀製のチェス」が、4歳で、ハサミを与えられて、紙をじよきじよき切って楽しんでいる。だが、拳玉の話は出てこない。本当にそうだろうか? 実はフランクリンの時代には、エロアール『日記』は抜粋版しかなかった。でも今では完全版(1989年)が読める。全3000ページという厚さにおそれをなして積ん読状態が続いていた『日記』を繙いて、ルイ王子が本当に拳玉で遊んでいないか、確かめてみるでしょう。

最後に、言い忘れたことがある。本書の随所には図版が挟まれていて、これがまた効果的なのである。ネット検索しても容易には探し出せないたいぐいの図版が多いのも、本書の価値を高めていると思う。

Le 23. chapitre raconte le roy
Louis estoit querie la ieune
puelle en bourgogne Et
puis comment il l'espousa en
la Bille De soiffons.



D'après les Chroniques de France, édition de 1509.

アルフレッド・フランクリン パリの私生活

LA VIE PRIVÉE D'AUTREFOIS: Arts et métiers, modes, mœurs, usages des parisiens du XII^e au XVIII^e siècle d'après des documents originaux ou inédits, par Alfred Franklin (Paris, 1887-1901)

Part 1: 服飾と「消費文化」 全5巻+別冊解説: 徳井 淑子(お茶の水女子大学教授) ▶2011年12月
定価(本体75,000円+税)・ISBN 978-4-86340-102-0・1616 pp.

Part 2: 料理と食事 全4巻+別冊解説: 平野 隆文(立教大学教授) ▶2012年9月予定
定価(本体60,000円+税)・ISBN 978-4-86340-103-7・1206 pp.

Part 3: 学校と子ども 全3巻+別冊解説: 宮下 志朗(放送大学教授) ▶2012年9月予定
定価(本体45,000円+税)・ISBN 978-4-86340-104-4・984 pp.

Part 4: 衛生、医療 全5巻+別冊解説: 松村 博史(近畿大学准教授) ▶2013年9月予定
定価(本体75,000円+税)・ISBN 978-4-86340-105-1・1524 pp.

Part 5: さまざまな日常 全6巻+別冊解説: 福井 憲彦(学習院大学長) ▶2014年9月予定
定価(本体90,000円+税)・ISBN 978-4-86340-106-8・1848 pp.

【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】